

ワシントン 教育事情

中部電力(株)岡崎支店長
内藤 雄順 氏



教育随想



平成21年1月1日

1月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

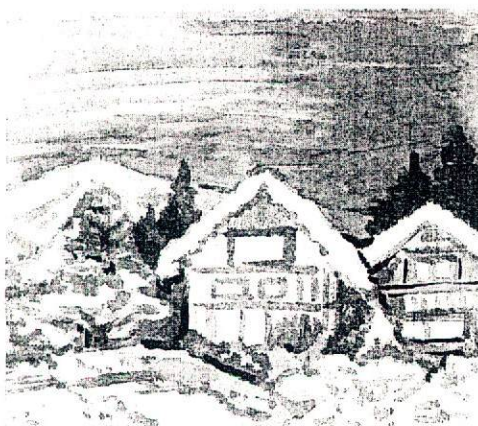
- 教育随想 1
中部電力(株)岡崎支店長
内藤 雄順氏
- この人に聞く 2
トヨタ車体バレーボール部
クインシーズ主将
都築有美子氏
- 羅針盤 2
生活・総合指導員
山内 貴弘
- ふれあい 3
六ツ美南部小 木島 綾子
JICAボランティア 稲垣 啓子
- 特集 4
未来につなぐたすき
60回を迎える
岡崎市民駅伝競走大会
- お知らせ 6
- フォト・ヒストリー 8
輛小学校との交流(昭和48年)
- この本を 8

平成十三年六月、私たち一家は米
国ワシントンへと出発しました。私
が弊社ワシントン事務所勤務となっ
たため、当時高三・中二・小五だっ
た三人の娘たちも米国メリーランド
州モンゴメリー郡で学校生活を送る
ことになりました。この地域には全
日制の日本人学校はないので、娘た
ちは現地の公立校に通いました。

九月に現地校の新学期がスタート
しました。親の心配をよそに、娘た
ちは、元氣よくスクールバスに乗っ
ていきます。現地の学校生活にすっ
かり馴染んでいくようでした。娘た
ちの英語は、苦闘する親を尻目にど
んどん上達していき、一年くらいで
生活英語は問題なく話すように見え
ました。ただ娘たちに言わせると、
読み書きを含む勉強英語で授業にき
ちんとついていくには、三年程かか

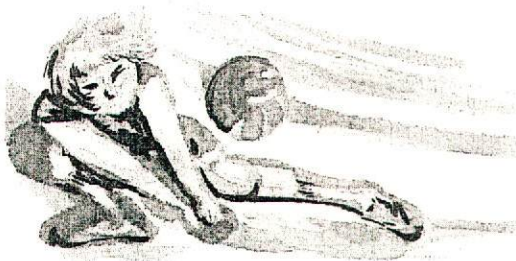
ったということでした。
現地では、流暢に話せても文章が
読めない・書けない人はいますが、
その逆は珍しい存在です。私の仕事
でも、電話でわからない時にeメー
ルで送つてと言うと、相手は?とな
ります。会話ができないのに文章が
読めるのかと驚かれたことがあります。
私と家内は日本の英語教育の恩
恵に与つたと思つています。しかし、
娘たちの様子を見てみると、小さい
ころからネイティブ・イングリッシ
ュに親しむことがいかに重要である
かを実感することができました。

海外赴任の心配事の一つに子供の
教育がありました。が、「案ずるより
産むが易し」の諺どおり、それぞれ
の娘なりに充実した米国での学校生
活だったと今はホツとしています。
また、私と家内にとつても、娘た



ちを通じて小学校から高校までの全
入・無償の義務教育、能力別教育や
飛び級、ボランティア教育、外国人
のための英語教育プログラムなど、
移民の国である米国の逞しさと懐の
深さの一端を教育という面から学べ
た貴重な四年間でした。

(ないとう かつゆき)

ふるさとシリーズ
この人に聞く

そのときしかできないことを

トヨタ車体バレーボール部
クインシーズ主将

都築 有美子 氏

母親の影響もあり、小学校四年生から始めたバレーボール。屋外で練習することもあり、体操服が泥だらけになるまで練習をしたという。それほど大好きなバレーボールであったが、当時の六ツ美中学校には、バレーボール部がなかったため、陸上部に入部した。走り高跳びの選手として、二年生の時には県大会に出場する活躍を見た。ところが、三年生になる時に、バレーボール部ができ、友達の間で、バレーボール部へ転部した。しかし、それでも陸上競技を続けることに迷いはなかったという。そして、三年の夏の県大

会や東海大会では、三回目の最終跳躍を成功させて入賞を果たし、大舞台の緊張感の中で力を発揮する勝負強さを培った。

「そのころは、高校へ行っても陸上競技を続けたいと思っていました。その自分にまさか声がかかるとは、思ってもいませんでした。」

きっかけは、恵まれた長身と、そのジャンプ力に魅力を感じた男子バレーボール部の顧問が、男子の高さでスパイクを打たせたことだった。男子に負けない強烈なスパイクに驚き、迷わず愛知県選抜候補者の練習会に連れて行ったという。そこに集まった関係者も、そのスパイクを見て、すぐに選抜選手に選んだほどであった。そして、冬には愛知県代表として全国大会に出場した。

「でも、三年間のブランクはとても大きく、新しいルールについていけず、結局コートには立てませんでした。ベンチから精いっぱい応援をしたのですが、やはり試合に出られなかったのは、悔しかったです。だからこそ、もう一度やってみたいと思う

ようになりました。」

その後は、とにかくバレーボールに打ち込みたいと考え、高校生の時から寮生活を始め、バレーボール一筋の生活を送ってきた。

「親元を離れてみて、親のありがたみがわかりましたね。何の心配もせず、思い切り打ち込むことができたのは、支えてくれた両親のおかげだと感謝しています。」

そして、高校、大学では、何度も全国の舞台で活躍をするようになり、主将も経験した。

「どの競技でも、あきらめずに頑張ること成果は出ます。小学生や中学生には、そのときしかできないことが目の前にあるはずですよ。そのことに情熱を傾けられるといいですね。」

大学卒業後は、最高峰のV・プレミアリーグに昇格したばかりだったトヨタ車体クインシーズに入部した。そして、二年目からは主将を務め、チームの大黒柱として活躍している。早朝練習から始まり、夜まで練習が続く毎日である。

「レフトアタッカーを務めているのですが、ここぞというときにスパイクを決められる選手になり、チームのリーグ優勝に貢献したいです。」

自分の夢に向けて、邁進している姿に、若いエネルギーを感じた。

氏名 つづき ゆみこ
生年月日 昭和五十八年五月十一日
住所 刈谷市一里山町



ゲストティーチャーの

効果的活用

生活・総合指導員 山内 貴弘

生活・総合の学習では、ゲストティーチャーを教室に招き、匠の技や自らの体験を投げかけてもらう授業が数多くある。A 中学校二年生の授業は、そのタイミングと効果に授業者の意図とのずれがなく、生徒の学びを大切にしていこうとする教師の願いにあふれていた。

参観した授業では、キャリア教育の一環として、職場体験学習後の生き方のキーワードを追究していた。

クラスでは、体験後のキーワードが練られた。B男は、自分の体験をもとにたどり着いたはずの「心の言葉」に自信を持ってないでいた。そして、C動物病院のD先生にもう一度お会いして、「仕事は楽しさだけではだめなのか」という疑問を投げかけてみたいという思いを高めていた。

「じゃあ、その疑問について、D先

見つめる日々

六ツ美南部小学校 木島 綾子

始業式から五日目の朝、電話で話す母親の声の向こうから、「行きたくない」というA男の声が聞こえた。A男は、現在五年生。一年生のころから登校を渋り、欠席も少なくない。彼を不登校にしたくないという思いから、A男を見つめる日々が始まった。

授業中、ぱつと見てできないことや分からないことがあると、ふてくされた顔をして考えるのをやめてしまうA男。そのため真つ先にA男のところへ行き、ちよつとヒントを与えることに心がけた。

「なんで先生、いつもおれんここに来る」と言いながらも、にやにやしなから説明を聞き、鉛筆をゆつくり動かし始める。

音楽の時間には、首をかしげてらむように歌っているA男。でも、私と目が合うと少し構え直す。

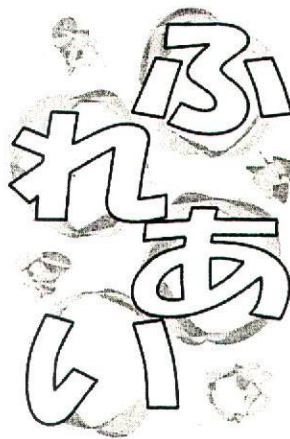
「ねえ、なんでこつち見る。」
私が見ていることに、よく気づくようになった。

私とA男のおしゃべりの輪にほかの児童も加わるようになり、だんだんA男自身に話しかけ、遊びに誘う級友が増えていった。A男も笑顔で応じ、

休み時間を充実させていった。四月に



四日あった欠席は、今では月に一回。もし一か月皆出席できたなら、泣けるほどうれしいんだけどなあ。



母の日の贈り物

JICAボランティア 稲垣 啓子

現職教員特別参加制度を利用し、南米のパラグアイに青年海外協力隊として派遣され、二年目になる。赴任先は、首都アスンシオンから東へ九十里、おんぼろバスに揺られて二時間のイタクルビ市である。町の中心にある児童数四〇〇人の小学校で算数を教えている。
「ケイコ、これ買って。」

母の日が近くに迫ったある日の授

業後、二年生のシンティアが話しかけてきた。手には彼女が作ったビーズの飾りを持っている。突然だったため、「考えておくれ」と言って、その場は断った。放課後、質問した私に担任が教えてくれた。彼女の家は貧しく、両親は果物を売っている。店を持つていてはではなく、町を通るバスの乗客に売るのだ。そのため、一日に何度もバスに乗ったり降りたりする。すぐに靴が傷む。そんな母親に、彼女は運動靴をプレゼントしたいのだ。その資金集めに教師や友達にビーズの飾りを買ってもらうようお願いしているという。そう語る担任の目に涙がたまっていた。何も考えずに断った自分を悔いた。

次の日、彼女が考えたアイデアをほめ、心から応援していることを伝えた。このことがきっかけで、シンティアは私のそばに寄ってきて、自分の家族のことを話すようになった。私はそんな彼女にいつも優しくほほえみを返す。



この授業では、ゲストティーチャーは、教師の代わりとして授業のまとめや追究方向の転換をするのではなく、生徒に寄り添うものであるという心得が具現化されていた。また、ゲストティーチャーの人の柄や人間性、生き方にも迫っていて、心地よさが残った。

生とお話したいよねえ。」
授業者の言葉と同時に、テレビにC動物病院の診察室が映し出された。テレビ電話によって結ばれた二つの現場、画面に映し出されたD先生からは、きつとB男が職場体験で感じたであろうたくましさや優しさが伝わってきた。パソコンに向かって一生懸命に話をするB男。
「仕事で人と接する時に何に気を付けるべきですか。」
B男は、ぎこちない質問にもつとつとまく聞けばよかつたと思つたであろう。けれど、D先生は診察室の臨場感の中で、「仕事の苦勞は苦勞ではない」、「ちよつとした優しい気持ちがあれば大丈夫」と笑顔で答えてくれた。

テレビ電話が終わつた後、他の生徒が「いい人だね」とつぶやいた。この授業では、ゲストティーチャーは、教師の代わりとして授業のまとめや追究方向の転換をするのではなく、生徒に寄り添うものであるという心得が具現化されていた。また、ゲストティーチャーの人の柄や人間性、生き方にも迫っていて、心地よさが残った。

授業者の陰の努力は、きつとこの授業でのさりげないスマートな対応とは対照的なものであつたらう。



▲ 中央総合公園でのスタート

これからも、多くの中学生が市内を駆け、仲間いたすきを渡し続けるだろう。まさに市民駅伝は、未来につなぐたすき、そのものなのである。

市民駅伝は、この六十年の間に、実に多くのランナーを輩出した。中には箱根駅伝に出場したり、実業団チームで走ったりする選手もいる。また、選手として活躍した中学生が、年を経て指導者となり、自分のチームで恩師のチームに挑戦するということも多い。

現在の中央総合公園を発着地点とするコースになるまでに、何度も変更が行われた。昭和三十年代には籠田公園を発着地点とし、市内を一周するコースもあったが、昭和四十七年度には、県営グラウンドをスタートとするコースとなり、回を重ねた。

この市民駅伝が大きく飛躍したのは、昭和五十七年度より、市内三十キロを駆け巡る市街地コースに変更されたからである。市内を東西南北に走る国道を計四回越えねばならぬ中でのコース設定は困難を極めたが、岡崎警察署の協力を得て、交通安全を祈念した大会としてリニューアルした。六名公園が発着地点であったのが、その後、中央総合公園のモニメント前に変更となり、現在のコースとなった。また、平成十年度より、女子の部もスタートし、さらに華やかさを増した。

今や岡崎の冬の風物詩となった岡崎市民駅伝競走大会(以下市民駅伝とする)が今年もやってくる。一月十八日に行われるこの大会は、今回で六十回目を迎える。交通規制をし、市街地の公道を駆けこの大会は、各ランナーにとってあこがれの大会である。また、一般選手と同じコースを走ること、中学生ランナーにとって、とても励みになる大会となっている。

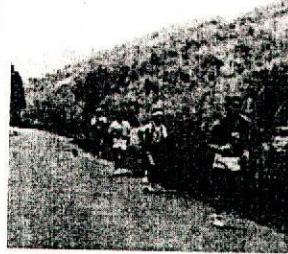


▲ 中学校女子の部のゴール



▲ 県営グラウンドでのスタート

県営グラウンド周辺コース



▲山間コースを走る選手



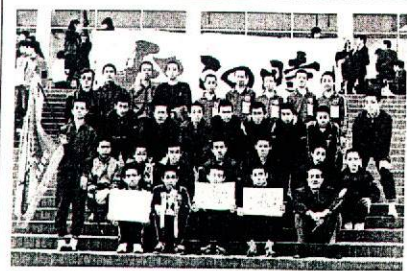
▲県営グラウンドでのゴール

昭和四十八年新春の市政だよりによると、第二十四回大会は一月二十一日に行われ、五十一チームが参加したとある。中学の部は男子のみの参加で、八区間十七・五キロ、県営グラウンドから生平町までのコースであった。

また昭和五十五年の第三十一回大会は、七区間十五・六キロで、県営グラウンド→稲熊町→箱柳町→田口町→板田町→岩中町→大井野町→滝町→県営グラウンドという周回コースで行われている。

右の写真を見ると、今とはまったく違った様相で、隔世の感がある。市民駅伝の伝統の厚みを感じるところである。

六名公園発着コース



▲三連覇を達成した東海中チーム

昭和三十年代は、今と比べると交通量は少なく、練習場所には事欠かなかった。リヤカーが通る学区の一般道を使って練習した。

市民駅伝のレース当日は、自家用車がないので、市電や路線バスを使って中継点に向かった。白バイの先導はなく、市の広報車が先頭を走り、スピーカーで到着の前ぶれをした。閉会式にも、走り終わった選手が、公共交通機関を利用し、なんとか駆けつけた。

第三十四回から、現在の市街地コースになった。これは当時の市長さんの「交通安全意識を高めるとともに、選手の走る姿を市民に観戦してもらいたい」という強い希望に後押しされたものだが、新コースが設定されてとてもうれしかったことを覚えている。

(元甲山中監督・現愛知陸協西三支部長 山内 満)

中央総合公園発着コース



▶六名公園前でのたすきリレー

一月の市民駅伝で、受験を直前に控えた三年生が走る。他の市町村ではどうているか考えられない熱意のあかしだ。この日に向けて半年間を費やしてきた思いを、最後の走りにぶつける。

「たかが駅伝、されど駅伝」。単調で苦しい練習であるからこそ、走りきったときの感動は大きい。ゴールインした瞬間、子供たちは必ず「続けてきてよかった」と言う。そして今、教え子たちがその感動を、次の子供たちに引き継いでくれている。

(元竜海中監督 現常磐中監督 太田 一弘)

師弟をつなぐたすき

これまでの全てをかけたこの大会。あの沿道の応援の中で、仲間の思いの詰まったたすきをかけて走る市民駅伝は、コースを走った者でなければわからない感動がある。中学生時代にそんな感動をたくさんもらったからこそ、教師になった今も、同じ感動を味わう部員たちを仲間と思える。

こうして恩師(太田一弘先生)から受け継いだ市民駅伝という名の伝統が、たすきとともに引き継がれていくのだと思う。

(元竜海中選手 現葵中監督 林 正彦)



▲沿道の熱い応援

お知らせ



●教育最新情報

○岡崎市「いのちの教育」

アクシヨンプランの進捗状況
昨年度、協議会が策定したアクシヨンプランの行動目標を受け、今年度、五つの部会
は、次のとおり具体的な活動を展開している。

○家庭部会

①全園・小中で七十四の活動を計画・推進中
(キーワード)
「親子」 ↓ 小学校十五校
中学校四校 幼稚園一園

「家族」 ↓ 小学校五校
中学校四校 幼稚園一園

②家族いきいきフォトコンテストの実施
冬休み中の家族のふれあい(六つの行動目標)をテーマにした写真コンテスト

・優秀作品を表彰し、「りぶら」に展示

・優秀写真をリーフレットにまとめ、年度内に市内全幼保小中に子供を持つ家庭に配布

③各校PTAの活動の推進とアンケート調査による検証

○地域部会

①全小中学校で、家庭・地域が主体となる活動の計画・推進
小学校六十六件
中学校五十六件

②夜間パトロールの充実
小学校三校 中学十二校

※各中学校区児童生徒健全育成協議会長、民生児童委員、少年補導委員、PTA会長、親父部などが主体的に参加

③各学校における「家庭・地域が主体となる活動」への積極的な参加・企画を依頼
・民生児童協議会への依頼
・少年補導委員への依頼
・主任児童委員部会への依頼

○園・学校部会

①「いのちの教育」指導案事例集(小学校)の作成・配布
・小学校版「心やさしさプラン(道徳)」「行いかげやきプラン(特別活動)」のカリキュラムと二学期分の指導案事例の作成

②岡崎市の研究指定校における検証
・矢作北中、矢作北小における「いのちの教育」の研究にかかわって、「命の尊さを学ぶ」カリキュラムと指導案の有効性について検証

③幼稚園・保育園の指導事例
・事例集作成のための実践事例の絞り込み

○子供部会

①全小中学校で児童生徒が主体となる活動を計画・推進
小学校九十七件
中学校四十一件

②はじめ撲滅シールの作成・配布(ロータリークラブから五十万円の奨学資金)
・中学生フォーラムではじめ撲滅の五つの行動目標の策定

・青少年赤十字トレセンにおいて市内全小中学校の代表児童生徒による五つの行動目標を実現するための協議
・全小中学校で、五つの行動目標を周知するための授業の実施
・全員にシールを配布↓小学生はランドセルのカバーの裏に、中学生は生徒手帳にシールを貼付

③心の電話おかさぎの活用

○行政部会

①学校相談員二名を拠点校配置
・南中学校と矢作北中学校に拠点校配置し、クレーマー対応、家出生徒、精神不安を抱えた生徒とその保護者への支援及び悩みを持った教師の支援

②関係各課との連携
・社会福祉協議会、安全安心課、生活福祉課、こども課、西三河児童福祉相談センター、健康増進課、岡崎警察署生活安全課との連携強化

●岡崎市美術館 展示会のご案内

岡崎市美術館では、定期的に特別展を実施している。夏に行われたシャガール展や秋に開催された源氏物語ゆかりの石山寺の特別展等、いずれも、そのレベルの高さが注目され、市内外から高い評価を受けた。こうした展示会を優れた文化に触れる絶好のチャンスととらえ活用したい。

現在は、新収蔵品展「歴史への誘い―武士・信仰・民衆―」が開催中で、武家、寺社、商家、文芸など幅広い分野にわたって、岡崎市ゆかりの資料が一堂に展示されている。子供たちにも、郷土への理解と興味を深める機会になると思われる。「わくわくカード」等を活用し、ぜひ鑑賞を勧めたい。また、教師としても自らの教養を高めるため、時間を作って鑑賞に訪れたい。なお、鑑賞に際して要望があれば、可能な限り、同館学芸員が説明をしてくれる。

※市内中学生は、生徒手帳を提示すると無料になる。

●表 彰

◆第十四回日本管楽合奏コンテスト

最優秀賞 竜美丘小学校
優秀賞 美川中学校

◆第三十九回博報賞

矢作中学校

◆第四十二回全国中学校文芸

作品・歌曲創作コンクール
特選・文部科学大臣奨励賞(全国一位)

甲山中二年 鈴木 崇造

◆第三十六回千代女少年少女

全国俳句大会

秀逸 竜海中三年 中野渡陽平

◆第三十二回毎日全国学生書写書道展

毎日進大賞
矢作中二年 片桐 美咲
書写検準大賞

◆第四十三回全国野生生物保

護実績発表大会
日本鳥類保護連盟
奨励賞 河合中学校

◆西日本小中学生アーチェ

ー大会
30 m男子の部
優勝 東海中二年 太田昇吾
30 m女子の部

優勝 東海中二年 長島深里
50・30 m女子の部

第二位 東海中二年 山田実央

◆第六回愛知県中学生アーチェ

50・30 m女子の部

優勝 東海中二年 山田実央

30・30 m女子の部

優勝 東海中二年 長島深里

30・30 m男子の部

第2位 東海中二年 太田昇吾

◆第二十七回愛知県中学生

バレエボール新人大会

(男子の部)

第二位 矢作中学校

第三位 竜南中学校

第二位 福岡中学校

第三位 六ツ美北中学校

◆第五回愛知県中学新人軟式野球大会

第二位 六ツ美中学校

◆第三十二回愛知県バドミントン大会

(女子ダブルス)
第二位 東海中一年 山藤千彩

◆第四十回小学校体育コンクール(東海三県

特選 岡崎小二年 柿野 雅斗

◆第十二回東海小学校バンド

フェスティバル
金賞 竜美丘小学校

◆愛知県防火ポスター

愛知県知事賞
大樹寺小六年 神谷 玲子

◆第四回人と自然にやさしいま

ちデザインコンテスト
愛知県知事賞

羽根小二年 酒井 良彰

◆第五十八回全国小・中学校作

文コンクール(愛知県の部)

優秀賞 矢作北中一年 末永夏波

六ツ美北中三年 石川有沙

◆明日の風文芸賞

愛知県知事賞
大雨河小五年 岩月 尚美

●第三十六回教育文化賞

岡崎の教育文化振興に寄与する個人または、団体の優れた研究や業績を顕彰・助成を行う「教育文化賞」の授与式が行われた。

本年度推薦された個人・団体は、総計四十二件であった。厳正な審査の結果、次の二個人、二団体が受賞した。

(個人の部)

○織部一良氏

岩津中学校吹奏楽部顧問として、今日まで十一年間にわたり、毎年レベルの高い演奏をつくり出してきた。全校生徒三四〇名ほどの小規模校の中で、吹奏楽部には五〇名程の部員が集まる。限られた時間の中で、楽器を演奏したくない生徒や楽譜の読めない生徒も含め、全部員を一人前の演奏者として育て上げてきた。その指導力は、生徒や

保護者からも高い信頼を得ている。

○小久井正秋氏

平成十二年以来、美合小学校をはじめ、市内十校を超える小中学校で農業体験の支援をしている。子供たちとの活動や講演会で自身の思いを伝え、子供たちに生き方について考える機会を与えている。

また、PTAはじめ各種団体にも農業活動支援をしたり、希望する市民に水田を貸し出したりするなど、子供から大人に至るまで幅広く食育を推進している。

(団体の部)

○岡崎市立竜美丘小学校吹奏楽部

昭和五十二年以来、三十二年にわたる活動の歴史を持つ。十九回の全国大会出場、その内二度、全国大会一位に輝く。「よい音で演奏するためには、不断の努力が必要である」という考えのもとに、地道で熱意のこもった練習を続けている。レベルの高い演奏技術や豊かな表現力は、高い評価を受けている。

また、敬老会出演やシビックセンター等でコンサートをを行い、学区内外へも音楽の楽

しさを美しさを伝え、好評を博している。

○額田みどりの少年団

昭和五十二年に結成以来、三十二年間にわたり、緑化活動を通して、情緒豊かな人間を育むことを目的に活動を続けてきた。間伐を行い、環境保全活動を推進するのみならず、間伐した木材を利用してベンチやテーブル等を作製し、小学校や公共施設、福祉施設に寄贈するなど、活動内容は多岐にわたる。こうした活動が高い評価を受け、平成十七年度には愛知県知事賞、昨年度は全国植樹祭大会会長賞を受賞する。



・カ
ッ
ト
六ツ美南部小 滋野井 貴子

とも 輛小学校との交流 (昭和48年)

写真提供：井田小学校

昭和四十六年、岡崎市と広島県福山市とが姉妹都市になったのを機に、翌年、井田小学校と福山市立輛小学校とが姉妹校となった。

この写真は、昭和四十八年三月の輛小との交流一周年を祝う式典の写真である。

昭和五十二年の新聞記事によれば、井田小学校から、六年生、保護者、教諭、合わせて百余人が福山市を訪問している。現在も、毎年一回訪問し合い、児童の絵画や作文を贈ったり、市の特産物を交換したりし、親交を深めている。

現在、岡崎市の小中学校と福山市の小中学校との交流は、本校と城北中学校の二校のみである。



正月の思い出といえば、家族や親せきと初詣をし、たこあげや百人一首に時間を忘れて楽しんだことを思い出す。

さて、わがクラスの子供たちは、どのような正月を過ごしたのだろうか。今も昔も変わらぬ正月の遊びが、登校してくる生徒たちの話題になることを願う。

シ オ ス ア

スーツや晴着に身を包んだ若者たちが成人式に向かう。恩師と思い出を語り合い、幼いころの友達と再会を喜び合う姿が、今年も見られることだろう。恩師の言葉や友達の成長ぶりに奮起して、新たな一歩を踏み出す新成人の清々しい姿に、励まされ、力をもらうことも多い。

大伴家持が新年祝賀の宴で詠んだ和歌、「新しき年の始めの初春の今日降る雪のいや重げ吉事」。大雪になると交通機関が混乱し、社会に大きな影響が出る。しかし、朝起きて雪景色が広がっていると、心が躍ってしまう。どんどん降り積もる雪のように、今年一年、よいことがたくさんありますように。

朝の中央総合公園モニュメントに、今年も号砲が響き渡る。鍛え上げた脚が一瞬で走り去る。今年で第六十回を迎える岡崎市民駅伝競走大会は、数々のドラマを生んできた。この大会のこれまでの伝統の重みを受け止め、これからどこまで岡崎の中学生が走り続けていくのかを思う。



- * 新渡戸稲造の人間道 岬 龍一郎 ￥1,365
PHP研究所
- * 修養こそ人生をひらく 谷沢永一・渡部昇一 ￥1,575
致知出版社
- * 子ども力がいっぱい 河合 隼雄 ￥1,800
光村図書出版
- * 息の発見 五木 寛之 ￥1,400
平凡社

* 人間力を養う生き方

鍵山秀三郎・山本一力 致知出版社 ￥1,470

変化の激しい時代、時に流されず確かに歩むための「人間力」をいかに養うか。

著者の対談でつづる本書は、困難を乗り越えてきた二人の重みのある言葉があふれる。授かった命、自分で決めた道、自分に恥じない生き方等、自分自身を振り返って問い返してみる。「最大のサービスとは、君の人格を上げることだ」という。教師として、人間性を、指導力を磨かねばなるまい。

常磐小 石川 昌幸